

男女共同参画推進審議会 会議録

審議会等の 名 称	平成25年度 第3回 瑞穂市男女共同参画推進審議会 会議
開催日時	平成26年3月26日(水曜日) 午後1時30分 から 午後3時00分
開催場所	瑞穂市役所 穂積庁舎 3階 議員会議室
議 題	・市民意識調査結果報告書(素案)について ・平成26年度実施事業について
出席委員 欠席委員	<出席委員> 会長 宮坂果麻理、石田達也、伊藤瑠美子、梅田裕治、江間安男、高橋由夏、 新田年一、福野 正、林 仁、松野 恵美 吉田愛子、和田恵利子 <欠席委員> 平田 芳子、鈴木 信子、廣瀬 数秋
公開の可否 (非公開理 由)	可
傍聴人数	0人
審議の概要	<p>開会</p> <p>【会長】 定刻となりましたので、第3回瑞穂市男女共同参画推進審議会を始めます。 まずはじめに、奥田副市長よりご挨拶いただきます。</p> <p>【副市長】 平成25年度の会議も3回目となり、本日は案の形で市民意識調査結果報告書がまとまりました。前は平成21年に市民意識調査を行い、それを基に平成22年に計画を作成しました。時代の変化と共にニーズが変化してきており、少子高齢化を迎える中で「子ども・子育て支援法」ができるなど、より一層子どもを取り巻く環境や子育て環境の充実を図る流れにあり、必然的に男女の役割も普遍化され、共同参画の理念が定着してきております。</p> <p>そのような中であっても、現実世界的にみると女性国会議員の数は未だに少ないなど、女性の社会的地位が担保されていない状況ですが、瑞穂市はどうであるのかを審議していただきたくお願い申し上げます。</p> <p>【会長】 皆様のお手元に市民意識調査結果報告書が届いているかと思います。私も結果や自由意見を拝見し、色々と感じることがございました。一つ言葉を取り上げますと、「男女共同参画は不必要」という感想がありましたが、こういった意識を持った方もおられるということもふまえ、アンケート結果を基に男女共</p>

同参画社会の実現に向けて、できる取り組みを着実に進めて参りたいと思います。本日も、審議委員の皆様には活発な意見をいただきたく、審議をよろしくお願い致します。

議題 1 市民意識調査結果報告書（素案）について

【会長】

さっそく議題に移らせていただきます。まず議題 1 の市民意識調査結果報告書の素案につきまして事務局からお願いいたします。

【事務局】（資料 1 概要及び問 1 ～ 問 9 説明）

【会長】

では順番に何かご意見や感想をいただければと思います。

【A 委員】

今回のアンケート結果と、前回調査、岐阜県の調査が枠が同じなので、今回の調査がぱっと見て解りづらいたと思います。

29 ページの「性別によって男女の役割を決める考え方について」の結果をみると、意外に若者の男女共同参画に対する意識の低さがでていたと感じました。

【B 委員】

結婚願望があまりなく、仕事などを充実したいというのが今の若い方たちの考えなのだというのを感じました。

【C 委員】

自由記入欄を見るといろいろな考えがあり、男女共同参画の難しさを感じました。男性、女性が何もかも一緒ではなく、バランスが大切であり、男女それぞれがいい面を出し合って協力していこうという意識をどう理解いただくのが重要であると感じました。

【D 委員】

男女とも結婚意識や子どもを持つ意識が低いことに、驚きとともにやはりなと納得しました。「男女の地位の平等感」をみると、70～75歳の女性の意識が他の年代と比べて変わっており、年を重ねると考えが変化するのかなと感じました。

【E 委員】

男女や年齢の別などで、それぞれの立場によって考え方の違いがあることがよくわかりました。「男女の地位の平等感」の中で、学校教育の場で平等であるの割合が高い結果は、今の時代であり、この子どもたちが大きくなったときに社会がどうかかわっているのかなと感じました。

【F 委員】

結婚観や子どもをもつ意識についてなどを見ると、いろいろな経験を経た高齢

の方のほうが、比較的相手方に対する理解が深まり、一人の人間としての尊敬など人生を重ねるとともに増えてくる。本人の経験による違いもあると思うが、早い時期からの教育が大事であると感じました。

【G委員】

問3の用語の認知度について、「男女共同参画社会基本法」の認知度の低さを感じました。20代の結婚については、今の若者の意識が反映された結果だと感じました。

また自由記入欄では、育児に関する要望が一番多いと思いました。今の若い夫婦は共働きが多く、保育園の待機児童の問題などの意見が多いと感じました。

【H委員】

私は瑞穂市の次世代育成支援対策協議会の委員をしており、そこで実施した意識調査では、子どもを産んでから早く現場に復帰したい、退職せず継続して就業したいという母親が増えているのを感じます。そういった意見に対応する体制を整えているところであるが、この意識調査からもその必要を感じました。

【I委員】

年齢を重ねると介護が課題になります。先日、女性の会で介護の現地訓練として、老人ホームでおむつ交換や車椅子の使い方などの講習を行い好評でした。参加者は女性のみでしたが、男性からもこういった介護の勉強機会があるとよいとの声があり、若い世代だけでなく年齢の高い世代にも男女平等に勉強できる機会を提供できるといいと感じました。

【J委員】

結婚や出産の意識について、今の状況が結果に反映されているなど感じました。結婚したいと感じられるようないい企画があると良いと思います。

【K委員】

男性と女性でグラフがわかりにくく、男女別のグラフの間に空欄をいれるなど一目瞭然でわかるようにしてもらえるとよいと思います。

44、45ページの「家事の主な分担」をみると、夫婦でお互い協力するというより、実情は妻の負担が多いと感じました。

また、ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する設問で、相談機関に相談しにくい、しても仕方ない、するのが恥ずかしいなど、相談員としてまだまだ啓発していかないといけないと感じました。

【会長】

皆様ご意見ありがとうございます。

では、続いて問10以降の説明をお願いします。

【事務局】(資料1 問10～問15説明)

【会長】

問10～問15までの結果についてなどご意見をお願いします。

【C委員】

問10「DVを受けた経験がありますか」について、例えば67ページを見ると、身体的暴力を受けたと回答した男性が一定数いることや、72ページの「セクハラ経験」について、受けたと回答した男性が少なからずあり、「自分が加害者になってしまった」という回答が含まれている可能性もあるのかなと思いました。

また、問13「女性の社会参画が少ない理由について」ですが、会社を営む立場として、女性の登用などについて積極的な意識を持つ人が多く感じているが、女性側に積極性がなく参画意識が低い場合もあり、もう少し積極的な女性が増えると良いと思います。

【I委員】

問10のDVについて、受けた経験がある人は若い世代ほど多いという意識があったが、結果は年齢があがる方が多いのが意外でした。

【会長】

他にご意見がないようですので、これで議題1は終了させていただきます。

議題2 平成26年実施事業について

【会長】

続いて、市民意識調査の結果をうけて、議題2「平成26年実施事業について」を事務局から説明をお願いします。

【事務局】(資料2 説明)

【企画財政課長】

実施事業案にある「ワールド・カフェ」というのは委員の皆様ご存知でしょうか。

【事務局】

「ワールド・カフェ」というのは、4人ずつのテーブルをいくつか設けて、お茶を飲みながら気軽に意見交換を行う対話方式です。結論がでない方法にはなりますが、男女共同参画については結論を出すような問題とは異なりますので、この形式があうのではないかと考えて計画しています。

2月に職員研修で実施した際も、大人数の会議とは違って、少人数で意見を言いやすく活発な意見交換ができ、今回は若年層対象ということで、大学でもこの形式を実施されたことがあると会長からも推薦いただいております。

【会長】

ありがとうございます。26年度事業について何かご意見や提案があればお願いします。

【A委員】

啓発物品について、スマートフォンクリーナーや絆創膏セットが配布されているのを見かけたことがあるので、どうでしょうか。

【E委員】

「ワールド・カフェ」について、「未婚子育て経験なしの男女」という対象者はどこまでも低年齢になってしまうので、何歳以上という年齢設定を設けた方がいいのではないかと思います。

【会長】

そうですね。中学生、高校生、大学生など何歳以上くらいがいいでしょうか。

【H委員】

18歳以上くらいでしょうか。

【E委員】

18歳以上だと現役高校生も対象になるので、高校卒業以上がいいのではないのでしょうか。

【K委員】

中学生くらいの若い世代への啓発という意味でも、中高生の部など対象者を分けて開催するといいいのではないのでしょうか。

【会長】

先日、「赤ちゃんポスト」をテーマに、高校生と大学生を対象にワールド・カフェを実施しましたが、意外に高校生もしっかり意見を話していて、そういう場を作ったことで、高校生たちも考えるきっかけになったとのことでした。若い世代への啓発の1つとしていい機会ではないかと思いますので、事務局でご検討をお願いします。

【G委員】

一昨年は、みずほふれあいフェスタで風船や啓発物品の配布を行いました。来年度は予定はあるのでしょうか。

【事務局】

一昨年は、男女共同参画に関する川柳などの作品募集を行うために、フェスタでブースを設けて委員の皆様にもご協力いただきましたが、今年度は風船や啓発物品の配布のみ行いました。来年度、もし委員の皆様にご協力いただけるようでしたらお願いします。

【会長】

みずほふれあいフェスタは11月第1週ということで、県の男女共同参画強化月間に重なるのでよいと思います。市ではそういった強化月間を作るなどはどうでしょうか。他の市ではこういった取り組みがあるのでしょうか。

【企画財政課長】

大垣市や各務原市では、「男女共同参画都市宣言」ということで、多様な事

	<p>業展開をしています。宣言をする場合は、内閣府とタイアップするなど大きい事業となりますが、今度の動向を含めて検討していきたいと考えています。</p> <p>【会長】 啓発物品についてのご意見はいかがでしょうか。</p> <p>【事務局】 庁舎内の男女共同参画推進会議ワーキング委員会からの意見では、DVなどの相談窓口を記載した啓発物品について、女性が持ち歩いても違和感が無いような物品がいいのではないかということでソーイングセットなどの意見がでしたが、いかがでしょうか。</p> <p>【K委員】 ソーイングセットは、以前女性相談センターで配布したことがあり好評でしたが、使い勝手のいいものが良いと思います。</p> <p>【E委員】 啓発物品について、かきりんが主張しすぎるものではなく、DV等の相談先などPRするべきことがもう少し目立つとよいと思います。</p> <p>【会長】 色々なご意見ありがとうございました。では、以上で議題2は終了させていただきます。本日はお足元悪い中ご参加いただき、また活発なご意見をいただきありがとうございました。本日の審議会は以上で終了します。</p> <p>閉会 (来年度審議会は5月末に開催することを確認して会長が閉会を宣言した。)</p>
事務局 (担当課)	瑞穂市 企画部 企画財政課 TEL 058-327-4128 FAX 058-327-4103 e-mail kikaku@city.mizuho.lg.jp